

公開・非公開の別

公開 部分公開

非公開

令和元年度 第3回浜松市人権施策推進審議会

1 開催日時 令和元年11月5日（火）午後1時30分から午後2時00分

2 開催場所 市役所 本館8階 第3委員会室

3 出席状況 審議会委員 浅岡 正義（アサオカ マサヨシ）
岡本 孝子（オカモト タカコ）
栗田 芙友香（クリタ フユカ）
小池 益美（コイケ マスミ）
小出 隆司（コイデ タカジ）
杉山 恵子（スギヤマ ケイコ）
鈴木 雅也（スズキ マサヤ）
野田 由佳里（ノダ ユカリ）

健康福祉部 森田次長

事務局 人権啓発センター：枝村所長、井川、柴田

欠席委員 河合 幸子（カワイ サチコ）

津村 公博（ツムラ キミヒロ）

4 傍聴者 2人（一般：0人、記者：2人）

5 議事内容 1 第2次浜松市人権施策推進計画（案）について

6 会議録作成者 人権啓発センター 柴田

7 記録の方法 発言者の要点記録

録音の有無 有 無

8 会議記録

1 開 会

2 会議の傍聴について

傍聴人なし

3 議 事

第 2 次浜松市人権施策推進計画（案）について

（事務局）

本編 人権施策推進計画 A 3 判について訂正・加筆した内容を説明

本編 人権施策推進計画 A 3 判についての質問・意見

（杉山委員）

1 ページ目の計画策定にあたっての枠内にある絵に文字がかかると、目の悪い方が読みにくいのではないかと。A3 判の施策の方向性・取り組みの番号の色は、ユニバーサルデザインを意識し、色覚に異常がある方達にも見やすいように考えられているのか。

（事務局）

印刷業者に発注する際、考慮してもらった。また、関連事業に関する色を使用するようにした。

（杉山）

分野別は、よいと思う。色覚に異常がある方は、一つのタイプだけではない。全てのタイプを考慮するとなると、大変だと思う。分かり易くするために色で区分したり、関連事業に関する色を使用しているのは、理解できる。しかし、色覚に異常がある方には、赤色と緑色がセピア色に見えてしまい、見えにくくなってしまうのが、残念。市民全員に満足してもらおう冊子にするには、難しいのではないかと。

（野田）

3ヶ所気になった部分があった。1 点目が、1 ページ目の政策目標・基本姿勢が縦に読めてしまう。少し文字を大きくしたり、下線を引くと横に読めるのではないかと。2 点目が、分野別の刑を終えて出所した人の人権の数字部分が、黒というのはイメージが悪いのではないかと。見やすいとは思いますが、なぜ刑を終えて出所した人の人権と性的マイノリティの人権だけ、黒を使用しているのかと指摘を受けてしまうのではないかと。3 点目が、分野別施策の取り組みの現状と課題の部分で、色で見分けができ、以前よりとても見やすくなったと思う。

（事務局）

丸を少し横長にするなど、一目で見て分かるようにしたいと思う。数字の黒字に関しては、色を考えたいと思う。

（栗田）

分野別施策の取り組みのその他の人権問題の部分で、取り組みの方向性にある犯罪被害者等、ホームレスに対する支援の部分が、犯罪被害者がホームレスのように読めてしまうのではないかと。

(杉山)

ホームレス・犯罪被害者などとすればどうか。

(事務局)

現状と課題の部分の順番との整合性があり、犯罪被害者等、ホームレスにした。

(栗田)

犯罪被害者、その家族やホームレスに対する支援としたらどうか。

(野田)

現状と課題の部分の順番を入れ替えたらどうか。

(事務局)

順番に関しては、法務省の17ある人権強調項目と同じ順番にした。見易さを重視するのであれば、順番にとらわれることなく、委員の意見を取り入れていきます。

(小出)

計画の策定にあたっての枠の中の文字を大きくした方がよいのではないか。

(浅岡)

上下・横を広くすると文字数の区切りが上手いくのではないか。

(事務局)

フォントを大きくすることも可能であるが、いかがか。

(小出)

計画の策定にあたっての文字の大きさは、充分読める。枠の中の文章の文字が小さく、読みたい気持ちにならない。

(事務局)

枠を広げ文字を大きくし、読みやすいようにする。

(浅岡)

計画策定にあたっての冒頭部分で、「誰もが幸せに生きていく権利」は鍵括弧を使用しているのに、しかしの段落以降は鍵括弧を使用していない。同じまとまりの部分の中で、統一したほうがよいのではないか。また、最後の行の思いやりあふれる社会は、政策目標であるため、鍵括弧を使用し協調すべきではないか。

(事務局)

鍵括弧を使用すると文字の区切りが、変わってくるが、いかがか。

(杉山)

本編で鍵括弧を使用し強調しているため、解説編では鍵括弧を使用しなくてもよいと考えている。しかし会長は、政策目標だから強調した方がよいと思った。浜松市としては、言葉として自然な投げかけにしたかったということだと思うが。

(浅岡)

解説編の2ページ目の文章も、強調したほうがよい。

(杉山)

最後を強調してもいいのではないか。

(事務局)

鍵括弧を使用するのはよいが、横に広げた時に、文字数が増えることにより、他

の行や全体のバランスがとれるか心配。

(浅岡)

強調する部分をより強調した方がいいのではないか。字の大きさも含めて、検討してほしい。

(事務局)

わかりました。

解説編 人権施策推進計画A4判について訂正・加筆した内容を説明

解説編 人権施策推進計画A4判について質問・意見

(小出)

31ページの②地域で生活しやすい環境づくりの表が就労のみとなっている。地域で生活しやすい環境づくりが、就労支援の取り組みしか記載していない。サブタイトルと表の内容が、あっていないのではないか。地域で生活しやすい環境づくりは、必ずしも就労支援だけではない。

(事務局)

29ページの(2)取り組みの方向性の2行目に、地域での生活がしやすい環境づくりや就労を含めた社会参加の促進などに取り組んでいきますと記載されておりますので、社会参加の促進まで記載するでよろしいか。もしくは就労を含めた社会参加の促進にしてはどうか。

(浅岡)

見出しの部分を少し見直してもらうという方向で。

(事務局)

先ほど提案した就労を含めた社会参加の促進を、②の表題とさせていただくでよろしいか。

(全員)

よろしい。

(杉山)

12ページの(3)主な取り組みの地域福祉型社会貢献活動に係る相談事業の内容の欄の2行目にあるアイディアは、アイデアではないか。

(栗田)

日本語読みでは、アイデアである。

(事務局)

アイデアに修正する。

(鈴木)

6ページの②の図の中の文章で、正しい知識と理解の解が大きい。

(事務局)

修正する。

(浅岡)

本編の計画策定にあたっての下から3行目の文章の点の区切りが、私たちの周囲にはまだまだの文章の点の位置がおかしい。正しくは、私たちの周囲にはの後ではないか。19ページの⑦の部分がかけている。31ページの③の障害者相談支援事業の内容の欄に、障がいのある人等となっているが、他の文章を見ると平仮名のなどを使っている。等にしたのは、見落としなのか、特別な意味があるのか。

(事務局)

点の区切りについては、私たちの周囲にはの後です。19ページについては、欠けているため修正します。等については、障害保健福祉課が担当課となりますので、障害者の計画の中の項目から引用している場合もありますので、一度確認します。などで統一しても差し支えないようであれば、整合を図るためになどで統一する。

(浅岡)

再犯防止推進計画の別冊案になると、当初の案より1ページ増えるが、最後のページの白紙を使用するという事でよいか。再犯防止推進計画は、保護観察所との関係性もあり、他の分野と表現が違うことについて、ここだけ特別のように見えてしまうため、委員の方々が納得していただけるのか。国からすると別冊で浜松市再犯防止推進計画書を作成してほしいとの考えはあると思うが、国と浜松市の考えの間をとって、この形としたのか。

(事務局)

再犯防止推進計画を人権施策推進計画の中に入れた理由としては、浜松市には多くの計画があり、これ以上増やせないため。市としては、包含できる計画があれば、その計画の中に入れていきたい。国としては、新たな再犯防止の取り組みを進めてほしいとの考えもあり、両方の思いを近づけた形とした。市としては、計画の中に計画がある形となってしまうが、人権施策推進計画の中に、再犯防止推進計画を包含している形とした。

(杉山)

他の分野別施策の担当課から、自分の施策についてもっと情報を掲載したいというような声が出たりしないのか。

(事務局)

その点については、懸念はあると感じている。再犯防止推進計画の内容だけが手厚く、他の分野別施策も同じような形にした方がよいと言われる事への心配もあるが、平成28年の再犯防止法の施行に合わせ人権施策推進計画においては、重点的な取り組みとしたという内容の説明はできる。人権施策推進計画の中で再犯防止計画のみが特別ではなく、昨今の国の動きや法施行の中で、地方での再犯防止推進計画の策定が求められているため、という説明でよいと考えている。

(杉山)

自分の生活の中で身近な分野については、自分で調べる事ができるため、少ない

内容でもよいと思うが、性的マイノリティのように周りにいても知らずに相手を傷つけていることがあるかもしれないため、身近でない分野についての情報が必要だと思う。私としては、再犯防止推進計画の容量について必要な量だと思う。

(野田)

例えば、資料の7刑を終えて出所した人の人権(再犯防止推進計画)、平成28年12月「再犯の防止等の推進に関する法律」の施行に基づいて、再犯防止推進計画の策定の説明を、一行入れるようにするだけでも違うのではないかと。私は、所長が説明した内容で納得できるが、初めて浜松市人権施策推進計画(解説版)を読む方が、様々な人権問題を読んだ際、刑を終えて出所した人の人権(再犯防止推進計画)だけ手厚いのは、どうしてなのかがわかるようにした方がよい。内容を読めば理解できるが、説明を付け加えることはできないのか。平成28年の国の方針により再犯防止推進計画を新たに作成したというような一文を入れてはどうか。説明がないと市民が全てを読んだ時に、違和感があるかもしれない。

(杉山)

第1次浜松市人権施策推進計画と大きく違うのか。

(事務局)

第2次浜松市人権施策推進計画の内容の方が、手厚くなっている。

(野田)

法改正や取り組みの方向性を簡潔な一文にして、付け加えてみてはどうか。本来なら最初に、計画作成についての取り組みの方向性が記載されているのが、後方に説明がされているため、なぜ人権施策推進計画の中に再犯防止推進計画があるのかという事を前方で説明してはどうか。

(事務局)

(1) 現状と課題の部分に、国の動きなどを付け加えるようにする。(2) 取り組みの方向性の中でも説明が記載されており、二重の説明になってしまうかもしれないが、(1) 現状と課題の部分にあった方が、理解できるため加えていく。

(杉山)

44ページに性的マイノリティの人達を総称して、「LGBT」や「LGBTQ」と表すとありますが、クエスチョニングで終わっている訳ではない。もっとあらゆる方がいる。表すときに使う言葉と記載してあっても、読み手からすると「LGBT」「LGBTQ」がすべての人を総称していると思ってしまう。「LGBT」「LGBTQ」が全てではないという一文を、付け加えるとよいのではないかと。例えば、「セクシャルマイノリティについては、ここでは全てを語れない。」など、一文があると当事者さんが読んだ時、嬉しいと思う。

(浅岡)

どの辺りにいれればよいか。

(杉山)

「LGBTQ」の「Q」の下部分でよいのではないかと。

(栗田)

当事者が読んだ時に、杉山委員が発言されたような一文があるだけで、浜松市は自分達の事を理解してくれていて、信頼でき、印象が変わるなど感じた。

(杉山)

代替え文を提示しないといけないと思うが、今は良い一文が提示できないため、私も考えたいと思う。

(事務局)

代替え文については、事務局で言葉を考え、杉山委員に意見をいただきたい。

(事務局)

本編の分野別施策の取り組みのその他の人権問題について、犯罪被害者等と、ホームレスの言葉のつながりについて指摘を受け考えていたが、現状と課題で犯罪被害者等を犯罪被害者やその家族とする。現状と課題で丁寧に説明し、取り組みの方向性では犯罪被害者等とするのは、どうか。もう一つの案としては、言葉の順番を変えてしまう方法もあると思う。

(栗田)

現状と課題のところで、等をその家族とすることにより、取り組みの方向性のところの等を家族のことだと、読む人が汲み取ってくれるのか。一層のこと、犯罪被害者等、及びホームレスとしてはどうか。

(杉山)

及びホームレスとすることにより、分かり易くなると思う。

(事務局)

取り組みの方向性の犯罪被害者等とホームレスを、及びで結ぶとする。

6 閉 会